

## 【掲載紙紹介】デンソーが考えるもっと安心できる車社会へ

2014年7月24日（木）東京ドームホテル（東京都文京区）で開催された運輸業界向け情報安全・環境対応関連商品についてのセミナー「デンソーが考えるもっと安心できる車社会へ」に関連した記事をご紹介します。

※物流ウィークリー8月4日（月）付、輸送経済新聞8月5日（火）付の発行紙面

以上

本件に関するお問い合わせ

株式会社デンソーセールス 経営企画部 経営企画室  
法務・広報課 中村 TEL:03-6367-9663

あいさつする藤井社長



# セミナー・展示会に200人が来場

## デンソーセールス「デンソーが考えるもっと安心できる車社会へ」

デンソーセールス（藤井俊彰社長、東京都渋谷区）は7月24日、東京ドームホテルでセミナーおよび展示会を開催した。梅雨明け直後の猛暑日となったが、関東近隣のユーザーやディーラー、業界関係者等約200人が集まった。

主催者の藤井社長は「本日は当社とデンソーが、現在そして将来に向けてどのような商品・サービスを提供しようとしているかを案内させていただき

ます。ぜひ皆様のご意見をお聞かせいただきたい」とあいさつ。同社が北海道から九州まで80社57拠点を運営するなか、「関東地区では150か所のサービス拠点で、あらゆるご要望にお応えできる態勢を整えている」と述べた。続けて、デンソー本社でアフターマーケット事業部を担当する平野富広理事は「デンソーは今年65周年を迎えるがアフターマーケット事業部はまだ4

年目で歴史は浅い。まだまだ皆様のご期待には充分応えきれない」と認識している。我々本部の人間も現場に出向かせていただいて、一緒になって皆さんと共に良い製品を世の中に提供していきたい」と話した。

セミナーの第一部ではデンソー情報安全開発室の田中裕章担当部長が「より安全なクルマのHMI（ヒューマンマシンインタフェース）」と題し、HMIに望まれること、視認性の高いHMI、運転

負荷状態によるHMIのあり方、運転状態検知の取り組みについて説明。第二部では日本

サッカークラブの川淵三郎キャプテンを講師に迎え「夢があるから強くなる」の講演を行った。



満席のセミナー会場

「安全のコーナー」では、インプリントされた全国地図と運転状況を照らし合わせて運転評価を行うドラレコ付きデジタコ「ドライビングパートナー」をはじめとする多種のデジタコ、10月から発売する4か所同時撮影の新型バックカメラの先行案内のほか、ドライバーの居眠りや注意力散漫な運転を検

知しスマホを通して警告する眼鏡「シンズ・ミーム」(27年春の発売予定)もいち早く紹介。「便利」コーナーでは、デンソーの様々な技術を集約した遠隔見守りシステム「ZONE D」を展示し、来客(または侵入者)をカメラが自動的に追尾撮影する機能を搭載し業務支援と見守りの両面でサポートするシステムを説明。また、SAS(睡眠時無呼吸症候群)の簡易検査ができる「スリープ

アイ」も多くのドライバーを抱える事業者に向けて提案した。このほか「環境」では水銀灯より7割近い消費電力等の削減と間接照明の効果も取り入れたLED灯「ライト兄弟」、「快適」ゾーンでは大地震などの災害時でも電力に頼らず5時間の蓄光で暗闇でも10時間の蛍光力を発揮する非常口誘導テープなども

展示した。

セミナー会場へと続くエントランスエリアはデンソーが提案する製品を展示。自動車および車内環境とオフィス環境の向上、同社が最も注力する「安全」に関する機器やシステムを「安全、環境、快適、便利」の4つのラインナップで分け、それぞれの製品に詳しいスタッフが付き、来場者に説明した。同社では昨年末から、デンソー製品全般と最新情報に随時触れられるショールームの全国展開を進めているが、この展示スペースはミニショールームを思わせた。

「安全のコーナー」では、インプリントされた全国地図と運転状況を照らし合わせて運転評価を行うドラレコ付きデジタコ「ドライビングパートナー」をはじめとする多種のデジタコ、10月から発売する4か所同時撮影の新型バックカメラの先行案内のほか、ドライバーの居眠りや注意力散漫な運転を検

知しスマホを通して警告する眼鏡「シンズ・ミーム」(27年春の発売予定)もいち早く紹介。「便利」コーナーでは、デンソーの様々な技術を集約した遠隔見守りシステム「ZONE D」を展示し、来客(または侵入者)をカメラが自動的に追尾撮影する機能を搭載し業務支援と見守りの両面でサポートするシステムを説明。また、SAS(睡眠時無呼吸症候群)の簡易検査ができる「スリープ

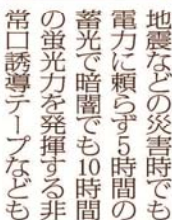
ZONE D



スリープアイ



展示した。



「安全のコーナー」では、インプリントされた全国地図と運転状況を照らし合わせて運転評価を行うドラレコ付きデジタコ「ドライビングパートナー」をはじめとする多種のデジタコ、10月から発売する4か所同時撮影の新型バックカメラの先行案内のほか、ドライバーの居眠りや注意力散漫な運転を検

知しスマホを通して警告する眼鏡「シンズ・ミーム」(27年春の発売予定)もいち早く紹介。「便利」コーナーでは、デンソーの様々な技術を集約した遠隔見守りシステム「ZONE D」を展示し、来客(または侵入者)をカメラが自動的に追尾撮影する機能を搭載し業務支援と見守りの両面でサポートするシステムを説明。また、SAS(睡眠時無呼吸症候群)の簡易検査ができる「スリープ

アイ」も多くのドライバーを抱える事業者に向けて提案した。このほか「環境」では水銀灯より7割近い消費電力等の削減と間接照明の効果も取り入れたLED灯「ライト兄弟」、「快適」ゾーンでは大地震などの災害時でも電力に頼らず5時間の蓄光で暗闇でも10時間の蛍光力を発揮する非常口誘導テープなども

展示した。

「安全のコーナー」では、インプリントされた全国地図と運転状況を照らし合わせて運転評価を行うドラレコ付きデジタコ「ドライビングパートナー」をはじめとする多種のデジタコ、10月から発売する4か所同時撮影の新型バックカメラの先行案内のほか、ドライバーの居眠りや注意力散漫な運転を検

知しスマホを通して警告する眼鏡「シンズ・ミーム」(27年春の発売予定)もいち早く紹介。「便利」コーナーでは、デンソーの様々な技術を集約した遠隔見守りシステム「ZONE D」を展示し、来客(または侵入者)をカメラが自動的に追尾撮影する機能を搭載し業務支援と見守りの両面でサポートするシステムを説明。また、SAS(睡眠時無呼吸症候群)の簡易検査ができる「スリープ

### デンソーセールスの 多彩な製品ライン

安全 環境 快適 便利

### 4つの区分で展示

「安全」のコーナーでは、インプリントされた全国地図と運転状況を照らし合わせて運転評価を行うドラレコ付きデジタコ「ドライビングパートナー」をはじめとする多種のデジタコ、10月から発売する4か所同時撮影の新型バックカメラの先行案内のほか、ドライバーの居眠りや注意力散漫な運転を検

知しスマホを通して警告する眼鏡「シンズ・ミーム」(27年春の発売予定)もいち早く紹介。「便利」コーナーでは、デンソーの様々な技術を集約した遠隔見守りシステム「ZONE D」を展示し、来客(または侵入者)をカメラが自動的に追尾撮影する機能を搭載し業務支援と見守りの両面でサポートするシステムを説明。また、SAS(睡眠時無呼吸症候群)の簡易検査ができる「スリープ



ドライビングパートナー

※ 掲載紙については物流産業新聞社より特別な許可をいただき転載しています。

※ 本紙の再転載についてはご遠慮くださいますよう予めご了承願います。

# デンソーセールズ・デンソー 都内で安全セミナー

## 輸送事業者ら200人集う

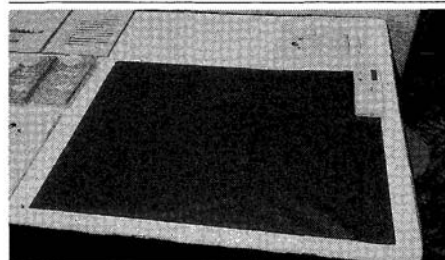
デンソーセールズ(本社・東京、藤井俊彰社長)とデンソー(同・愛知県刈谷市、加藤宣明社長)は七月二十四日、都内でセミナーを開催。輸送事業者ら約二百人が参加した。テーマは「デンソーが考えるもっと安心して暮らす車社会へ」。二つの講演のほか、輸送事業に貢献する最新商品が展示された。

冒頭、藤井社長は「セミナー出席者の要望に基づいた商品・サービスを提供することが、当社の事業基盤。忌憚(きたん)のない意見をもらえればとあいさつ」。

今回のセミナーに展示された、デンソーの睡眠評価装置「スリープアイ」II写真。睡眠時無呼吸症候群(SAS)の簡易検査が簡単にできる。九十

# デンソー SAS検査を簡単に 睡眠評価装置が好評

付属ソフトで自動解析  
九つの感圧センサーで構成されたシートを敷いて寝るだけ。無拘束で検査でき、被検者に負担を掛けないのが特徴。ユーザ変化などを検出する仕組みからは「違和感で眠り」み。データは専用のメモリーカードに記録。付属



検査が簡単にできる。九十  
九つの感圧センサーで構成されたシートを敷いて寝るだけ。無拘束で検査でき、被検者に負担を掛けないのが特徴。ユーザ変化などを検出する仕組みからは「違和感で眠り」み。データは専用のメモリーカードに記録。付属

最新の商品展示・解説  
展示会場では、「安全」  
「環境」「快適」「利便」のテーマごとに商品分け  
「安全」のブースには多  
ルタコグラフ(運行記録  
計)・ドライブレコーダ  
「安全」のブースには多  
ルタコグラフ(運行記録  
計)・ドライブレコーダ  
「安全」のブースには多  
ルタコグラフ(運行記録  
計)・ドライブレコーダ

の解析ソフトをインストールしたパソコンに読み込めば、無呼吸・低呼吸指数や呼吸波形を自動で解析。産業医が治療の要否を判断するためのレポートを作成できる。  
スリープアイを導入したある事業者では、実際にドライバーのSASを発見。事故を防ぐためドライバーへのSAS治療を徹底し、配置換えや勤務形態変更の検討材料にしたケースもある。

法改正で厳罰化、注目度増す  
近年、SASが原因の居眠り事故が相次ぎ、六月の道路交通法改正による厳罰化で、輸送事業者が荷主から対策を要請されるケースも出てきている。病院での個人による検査を嫌うドライバーが少なくない現状では多くの場合、SAS対策の「第一歩」は会社が用意しなくてはならない。その点で、手軽に正確な検査ができる睡眠評価装置のニーズは高い。  
スリープアイの開発は平成十二年、デンソーが自動車で長年培ってきた着座センサーの技術を生かしてスタート。ことし、デンソーセールズで販売を始めた。  
「事故をなくすにはまず、ドライバーに病気を認識してもらうことが大事」とデンソーセールズ。「SAS」に起因する事故ゼロに向け、多くの企業でスリープアイを役立ててほしい」  
重さは約一・六キ。価格は定価七十万円(税別)。今年度、一社八十万円を上限に半額を補助する国土交通省の一過労働防止のための先進的な取り組みに対する支援「事業の対象になっている」。

※ 掲載紙については輸送経済新聞社より特別な許可をいただき転載しています。  
※ 本紙の再転載についてはご遠慮くださいますよう予めご了承願います。